

令和元年度学校教育活動評価〔総括①〕 ※「平均」の()内数字は、平成30年度の平均値・「判定」の平成30年度の比較「↑」向上、「↓」低下、「→」維持

1 基礎基本の定着と主体的な学習習慣の確立【学力向上】 ☆「めざす南関町の子ども像」関連『4 夢に向かって、自ら学び挑戦し続ける子ども』

重点努力事項	具体的な実践内容（○成果・▲課題）	評価			平均	判定	改善策や今後の方向性	学校運営協議会等の意見
		生徒	保護者	職員				
①基礎的・基本的事項の定着と主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	①（○）「なん・かん・ちゅう」授業スタイルの取組を共通して行うことができた。また、全員拳手の取組より、意思表示する機会が授業中増えた。（▲）次年度は、振り返りの時間確保に努める必要がある。 ②（○）落ち着いた学習環境は、学年・学級によって差はあるが、昨年度より向上した。 ③（▲）ICT活用の機会は年々増えているが、さらに多様な活用が必要である。また、生徒自ら学習活動で使用する機会を設ける必要がある。 ④（○）職場体験（2年）・訪問（1年）は、町内関係事業所の協力により意義ある学習活動が展開できた。（▲）家庭学習においては、自主的に取り組む姿勢や自己の課題にあった学習内容に取り組める態度を身に付けさせたい。	2.8	3.0	2.8	2.9 (2.8)	B →	・授業等で自分の思いをはっきり伝えられるようにさらに高めていく。 ・凡事徹底（やるべきことをやるべき時にできる生徒をめざす）を全校で取り組む。 ・キャリア教育の視点も含め、将来の夢や自分自身の姿をイメージできる生徒を育成する。 ・自主的に家庭学習に取り組む態度を育成する。 ・小中連携の充実を図る。	・教科に関する調査では、「わかる」「好きである」の評価が、学年が上がるにつれ下がっているようで気になります。特に英語が顕著である。1年生時の意欲が持続していない原因は何なのかと思います。 ・家庭ではゲームに夢中になるが、長期休みの間、カバンはそのままの状態という声も聞かれました。新型コロナで学校も長期の休みが続きます。今後、家庭学習に取り組む生徒としない生徒との差が一層広がるのではないのでしょうか。 ・学習面においては、今の南関中生にとって、とても大事な課題と感じます。小学生時の課題をもって中学校に進んで来たと思われる子どもが多い。特に自学は家庭環境やその家庭の教育力に左右されるが取り組みの工夫が必要だと思われる。 ・将来の自分自身の目標やなりたい姿をイメージできるような授業が必要だと思います。早い段階で将来の目標を設定できた生徒は、自ら学び自己研鑽をできると思います。一度きりの人生を力強く生き抜くために学習することの意義を正しく伝え理解させ「夢叶うまで挑戦」を実践できる生徒になって欲しい。
②「学習の達人5箇条」の徹底を図り、落ち着いた学習環境を整える。		2.6	3.0	3.0	2.8 (2.7)	B →		
③UDの視点に立ち、ICTを活用した「分かる授業づくり」をめざす。		3.1	3.0	2.8	3.0 (2.8)	B →		
④キャリア教育を推進し、主体的な家庭学習環境の定着を図る。		3.0	2.9	2.6	2.8 (2.7)	B →		

2 生徒の自己肯定感を高め、心豊かな生徒の育成【心づくり】 ☆「めざす南関町の子ども像」関連『3 思いやりの心を持ち、自分の考えを伝えられる子ども』

重点努力事項	具体的な実践内容（○成果・▲課題）	評価			平均	判定	改善策や今後の方向性	学校運営協議会等の意見
		生徒	保護者	職員				
①不登校ゼロをめざし、心やすらぐ学級づくりと、組織的な「愛の123運動+1」を推進する。	①（▲）不登校数減少に至っていないが、支援が必要な生徒全職員で関わる事ができた。（○）また、関係部局と連携した支援委員会の開催も継続できた。 ②（▲）諸調査から自己肯定感の高まりは確認できなかった。授業や各種行事等を通して、「認め・褒め・励まし」の指導を高めていきたい。 ③（○）4月、11月の授業参観では、道徳・人権教育の指導を行い、家庭に対する啓発も行った。 ④（○）週2回の1分間スピーチを各学級で継続することにより、思いや考えを堂々と述べる生徒が増えた。また、学年・全校集会で原稿を見ず堂々と発表できる生徒も増えてきた。さらに、人権集会等では、発表者に対する「返し」が絶えない場面が多く見られた。	3.1	3.2	3.1	3.1 (3.1)	A →	・安心して自分の意見が言える学級・学年の支持的風土を高める。 ・相手意識を持ったスピーチが行え、原稿を見ずに堂々と発表できる生徒を増やす。 ・人権集会等の返しが「自分は・・・」という視点で言えるようにする。 ・道徳や人権教育の授業を保護者や地域等に積極的に公開して学習内容の啓発を行う。 ・生徒一人一人自己肯定感が高まる取組を全職員で行う。	・教科担任制である中学校では、すべての生徒一人一人が、どの先生（職員）が何らかの形（授業・ホームルーム・部活動・生徒会活動など）でつながっていることが大事だと思う。 ・自分の思いを伝える生徒が増え、発表者に対する「返し」が絶えない位多く見られた事は、とてもうれしく思いました。多くの生徒が人前でちゃんと自分の意見が言えるようになれば、その生徒の自信にもつながりますし、うれしいです。 ・家庭環境と自己肯定感がリンクすることが多い中で、廻りが支える事も出来ると感じている。人権、道徳教育は実生活のなかで育まれることが多いし、教科学習の礎の上に成り立つと感じる。素直な子が多く「おとな」の課題もあると思う。 ・相手の立場で物事を考え、発言と行動ができる生徒を目指して欲しいと思います。感情のコントロールができて相手の意見を聞き、自分自身の意見も正しく伝える。先生方や親御さん、友だち同士を尊敬することができる「素直な心」の育成が重要だと思います。文化の日で、1年の宮本峻輔さんが発表してくれた「本当のことを伝える大切さ」は、とても感動した。
②生徒一人一人を認め、褒め、励まし自己肯定感を高める教育を推進する。		2.8	3.0	2.8	2.9 (2.9)	B →		
③特別の教科 道徳を充実させ、「熊本の心」「つなぐ～熊本の明日へ～」等を効果的に活用する。		3.1	3.0	2.7	2.9 (2.8)	B →		
④人権教育を根底に据えた学年・学級経営を推進し、1分間スピーチの充実を図る。		3.3	3.1	2.8	3.1 (2.7)	A ↑		

※評価基準 A：十分適切である（3.1以上） B：おおむね適切である（2.7以上～3.0未満） C：課題がある（2.5以上～2.7未満） D：課題が多く速やかな改善が必要（2.4未満）

3 学校体育及び健康教育の充実【体づくり】 ☆「めざす南関町の子ども像」関連『2 明るくたくましく、元気にあいさつできる子ども』

重点努力事項	具体的な実践内容（○成果・▲課題）	評価			平均	判定	改善策や今後の方向性	学校運営協議会等の意見
		生徒	保護者	職員				
①小中連携を通じて、基礎的な体力の向上を図り、自ら運動に親しむ生徒を育成する。	①（○）スポーツ庁委託事業の取組から体力の実態を把握し学習活動等に活かすことができた。（▲）運動する子としない子の二極化現象は課題のままである。	3.4	3.2	2.8	3.2 (3.1)	A →	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を欠食する生徒「0」を目指し、食の重要性を認識した実践的態度を育成する。 部活動指導員と連携した「学校における働き方改革」を推進する。 安心、安全学校づくりを全職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に他の領域よりも高い評価がなされている。このことを他の領域の向上に生かす手立てはないものでしょうか。 生活習慣がルーズになると食生活まで関係してきます。今のお母さん方自身が朝食抜きの人が多いのではないのでしょうか。登校前におにぎりやパン他手軽に食べられる物でも良いので口にして欲しいです。 生徒数の減で部活動が活気づいていないように見られるが、南関中はポテンシャルがあるが（指導者を含む）何分生徒数が少ない。 食については、日本全体の課題がある。（偏食、個食、孤食など）給食に期待するしかない。 ともすれば身体の成長が先走りがちですが、心身の成長のバランスを重視し、スポーツや部活動等で丈夫な体やチームプレーのすばらしさ体感し、友情の輪を広げて欲しい。また、「命の大切さ」を学習し生まれてきたや、家族に育てていただいたことに感謝をして、自分の命、友達の命、すべての命の大切さを考えられる生徒になって欲しい。
②部活動指導員、外部指導者及び外部団体との連携を深め、魅力ある運動部活動の運営を図る。	②（○）部活動指導員の配置により専門的な指導が行えている。また、顧問が学校業務を安心して優先できている。「部活動やクラブ活動へ積極的に参加している」と答える生徒も多い。	3.5	3.3	2.9	3.2 (3.2)	A →		
③学校保健及び学校安全の充実を図ることにより、健康で安全に生活できる生徒を育成する。	③（○）「交通安全に心がけ正しく自転車通学を行っている」と答える生徒が多い。登下校の安全については、三者の評価も高い。	3.2	3.2	2.9	3.1 (3.0)	A ↑		
④給食時間の充実や弁当づくり等を通じて、食に対する関心を高め、食育の推進を図る。	④基本的な生活習慣アンケートから7割の生徒が朝食を食べており、改善傾向にある。弁当づくりコンテストも好評であった。	3.4	3.3	2.6	3.1 (3.1)	A →		

4 気づき、考え、行動できる生徒の育成及び地域とともにある美しい学校づくり【生活充実】 ☆「めざす南関町の子ども像」関連『1 南関町を誇りに思い、ふるさとを愛する子ども』

重点努力事項	具体的な実践内容（○成果・▲課題）	評価			平均	判定	改善策や今後の方向性	学校運営協議会等の意見
		生徒	保護者	職員				
①「あいさつ」「黙掃除」ができる生徒を育成する。	①（○）生徒会を中心に挨拶レベルアップに取り組んだ。特に立ち止まって挨拶を励行する生徒が多かった。校内における黙掃除も全校で取り組めた。また、「跡を美しく」のキーワード通りに、生徒自ら学習環境を整える姿勢が身に付いてきた。	3.2	2.8	2.7	2.9 (2.9)	B →	<ul style="list-style-type: none"> 学校外でも挨拶は、よく返してくれる。注意するような行動もないようです。 地域で言えばよく挨拶してくれます。読み聞かせにお邪魔した時の子供たちのキラキラした視線がとても印象的でした。「集中して聞くぞ」という態度がとてもうれしく思いました。 南関中だよりを読み、先生方や生徒の様子が良くわかり隔々まで気を配られている校長先生の大変さが伝わってきました。 地方の子どもに多い引っ込み思案な頭の下げ方、あいさつをするが、こちらからすると素直に感じる。掃除を黙掃除とすることは、生きる力や社会人力が着く基礎と思いを力を入れて欲しい。 南関中の生徒は、学校内は勿論ですが学校外でも大きな声で挨拶をしてくれます。町民グラウンドで練習されているソフトテニス部、陸上部の部員の皆さんから大きな声で挨拶をいただき元気ももらっています。大人や地域の役割は連携して子供たちを育てる事です。その子供や生徒たちが感謝の気持ちを込めて大きな声で挨拶をしてくれる。そんな素晴らしい関係が構築できるように私たち大人も頑張りましょう。 	
②生徒会役員を中心とした生徒会活動、サンライズ活動の充実・発展を図る。	②生徒会役員が学校行事等を積極的に運営することができた。生徒会は全校生徒のリーダーとして立場が定着しつつある。（▲）しかし、南関中伝統と誇る生徒もいる「サンライズ活動」への参加が十分でない状況がある。	3.3	3.2	2.9	3.1 (3.0)	A ↑		
③「花・緑いっぱい運動」による潤いのある美しい学校づくりをめざす。	③（▲）日常的な校庭清掃が行えないため、花壇の管理が一部に偏ってしまっている。	3.4	3.3	3.0	3.2 (3.2)	A →		
④地域の教育力を活用し、地域とともにある学校づくりを行う。	④（○）学級通信等がよく発行され情報発信が積極的に行えた。ボランティア団体（南関町喜ばせ隊）の取組は、感謝の声が多く聞かれた。	3.3	3.1	3.1	3.2 (3.1)	A →		

※評価基準 A：十分適切である（3.1以上） B：おおむね適切である（2.7以上～3.0未満） C：課題がある（2.5以上～2.7未満） D：課題が多く速やかな改善が必要（2.4未満）